377 核医学用光ディスク記憶装置の開発 中山俊夫、山崎光芳、龍池敏雄(横河メディカル)

378 全自動RI分注装置の開発

藤田和男、江口健三、亀井清、佐々木猛、土屋秀二 本野恵司(安西メディカル株式会社)

放射性医薬品の取扱時の被爆を軽減するとともに作業能率を向上させるために標識作業、ミキシング作業注射器分注作業を自動化した装置を開発した。本装置の主な機能はディスポーザブルの注射器と注射針を使用して標識パイアルへの分注、注射器への分注を遮蔽をしたまま容量(ml)または放射能量(mCi/MBq)で高精度で清潔に分注出来るものである。

379 バイアルシールド放射能測定器

藤田和男、江口健三、亀井清、佐々木猛、土屋秀二 小林由和(安西メディカル株式会社)

短半減期核種である⁹⁹ T cの現在での放射能量を被爆することなく測定するためにバイアルをバイアルシールドに入れたままバイアル内の放射能量を測定する装置を開発した。

本装置はすべての^{99 o} T cジェネレーターに装着可能な 専用パイアルシールドと、m C i とM B q で測定出来 る測定装置本体で構成されており、専用パイアルシー ルドを測定器本体に置くだけで自動的に測定を行うも のであり、ミルキングされた大数量の放射能測定に効 果があると思われる。 380 高速スキャン法とその応用

佐伯俊悦,藤井清文,滝沢 修(シーメンスメディカルシステムズ株式会社)

新しいグラジェント・エコー法を用いた,FISP法 (fast imaging with steady precession 法) では,T R時間を 0.0 2 秒, 1 28^2 マトリックスで 2.5 秒のスキャンで画像をつくることができ,浮腫や C SF を描出することができる。

このような高速スキャン法の開発により、ほかの応用も考えられている。たとえば頭部全体を1回のスキャンで128枚の画像にする三次元フーリエ法を用いれば、全体を立体的にとらえることができ、脳外科手術のシミュレーションが可能である。また心電図に同期させて、心臓の働きをシネ撮像する方法では、心壁の動き・心腔内の血液の動きをダイナミックにとらえることが可能になっている。

381 2 テスラ超電導磁石を用いたMR/Cついて 中澤 昇、牧 壮(旭メディカル),入口紀男, 豊島日出夫,武田順一(旭化成工業)

旭化成グループは、高品質画像による形態診断機能に加え高度な生化学分析診断機能をも合わせ持つMRIS装置として、本機の開発を進めております。

2 テスラという高磁場の為・任意体部の1H画像は勿論・13C・19F・31F等の異核種画像も描出します。一方スペクトロスコピーではケミカルシフト分解能が優れ・31 Pに関し代謝の変化を約1秒毎に追跡出来ます。そしてこれら2分野の技術力をもって独自のケミカルシフトイメージング法 SIDAC を開発し・現実的な撮影時間内での多成分分離イメージングを可能にしております。

以上の他にも、流れの速度分解イメージング、任意局 所拡大イメージング、ポリュームセレクティブスペクト ロスコピーなどの先端機能を開発しております。

382 0.2 T永久磁石方式MRIにおける グラジェント・エコーの有用性 西村 博, 竹内 博幸, 渡部 滋, 横山 泰彦 (日立メディコ技術研究所)

グラジェント・エコー法は、静磁場不均一性の影響を受け易い、動きに弱い、磁化率の変化が画像上に現われるなどの不利な点があるにもかかわらず、フリップアングルを低くとることにより撮像の高速化が可能であるなどの有利な点があるため近年急速に利用され始めていったがの内の高い永久磁石方式MRIにおいても、エコー時間短縮によってスピンエコー法に比べてS/N比の向上がみられた。心臓領域でも、低フリップアングルによる同一断面のマルチエキサイテーションにより、心臓の動態表示が可能となった。また,低フリップアングル・グラジェント・エコー法を脊髄領域に適用し、脊髄と脳脊髄液腔の区別が明瞭となるMR Myelogramも得られた。